TGR TEAM ZENT CERUMO

2022 AUTOBACS SUPER GT Report

OKAYAMA GT 300km RACE

第1戦　岡山国際サーキット

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆4 月 16 日（土）　QUALIFY

公式予選結果　4 位

なかなか思うような結果が残せないままシーズンを終え、ランキング 12 位という悔しい結果に終わった TGR TEAM ZENT CERUMO の 2021 年。捲土重来を期し、2022 年に向けチームはエンジニアリングを中心に体制を大きく強化。全幅の信頼を置く立川祐路と石浦宏明のコンビでの栄冠を掴むべく、２月からたくさんのテストメニューをこなしてきた。

迎えた 2022 年シーズンの開幕の舞台は、例年同様岡山県の岡山国際サーキット。ツイスティでコースも狭く、例年多くのドラマが起きるコースだ。ハードスケジュールのなか、TCD の協力も得ながらチームは ZENT CERUMO GR Supra を徹底的にチェック。準備万端に整え、4 月 16 日（土）の予選日を迎えた。

前日の搬入日は冷たい雨も降った岡山だが、予選日は朝から晴天に恵まれた。風は冷たいが、コースはドライコンディション。今回、まずは石浦宏明がステアリングを握り午前 9 時 20 分からの公式練習にコースインすると、まずはチェックを行いふたたびコースへ。開始から 20 分が近づくところで、1 分 19 秒 814 から 1 分 19 秒 650、さらに 1 分 18 秒 899 とタイムを上げていく。３月の公式テストから少しずつ ZENT CERUMO GR Supra のポテンシャルを上げてきたが、

TGR TEAM ZENT CERUMO

これまで積み重ねたきたセットアップが繋がり、感触も良好だ。

石浦は 21 周を走るとピットに戻り、立川祐路にステアリングを託した。石浦同様、立川も ZENT CERUMO GR Supra の好フィーリングを掴むと、2 回のピット作業を行いながら周回を重ね、終盤 10 分間設定された GT500 クラスの専有走行で再度コースへ。チェッカー間際に 1 分 18 秒 598 というベストタイムを記録し、8 番手で公式練習を終えた。

その後行われたフルコースイエローの訓練、さらに 2019 年以来ひさびさに行われたピットウォークにも参加し、ファンと近くでふれ合ったチームは、その間のスケジュールを使いながらエンジニアたちとドライバーふたりが検討を重ね、午後 2 時からの公式予選に臨んだ。GT300 クラスの Q1 で赤旗中断があったことから、当初予定よりも遅れた午後 2 時 46 分にスタートした GT500 クラスの Q1 で、ZENT CERUMO GR Supra のアタッカーを務めたのは石浦だ。

予選までの間にエンジニアたちと相談して進めたセットアップが功を奏し、石浦はさらに ZENT CERUMO GR Supra に良い感触を得ていた。ただ、1 分 34 秒から 27 秒と少しずつペースを上げながらタイヤを温めていた石浦だったが、その間に少々予定外のトラブルが。さらにアタックラップに向かおうというところで、今度はヘアピンで#19 GR Supra がスピン。イエローフラッグが提示されていた。

ここでアタックに入っては、危険を知りながら減速をしていなかったとしてタイムが抹消になってしまう。石浦は冷静にアタックを止め、残り時間を見ながら再度アタックに入っていく。この段階では Q2 進出にはまだ遠い。一度きりのチャンスでタイムを上げな

ければ、Q2 進出はできなかったが、そこはさすが石浦。セクター1、2 でベストタイムを更新すると、最後は 1 分 17 秒 460 というタイムをまとめ上げ、8 番手に。Q2 進出に滑り込んでみせた。

石浦からのフィードバックを得た Q2 担当の立川は、午後 2 時 46 分からの Q2 に臨んだ。ZENT CERUMO GR Supra の感触はやはり良好。しっかりとタイヤをウォームアップさせると、5 周目に 1 分 17 秒 899 をマーク。さらにチェッカー周には、1 分 17 秒 729 までタイムを上げてみせた。ZENT CERUMO GR Supra の順位は 4 番手。見事 2 列目のグリッドを獲得した。

2021 年はなかなか到達できなかった表彰台が見える位置を掴んだ TGR TEAM ZENT CERUMO。戦える感触を取り戻し、この予選順位を結果に繋げるべく開幕戦の決勝レースに挑む。

ドライバー／立川祐路

「いよいよ開幕戦を迎え、予選日を終えました。このシーズンオフはエンジニアリング体制やクルマの見直しなどを行い、体制を強化して臨みました。また TCD さんの協力も得てクルマのチェックを行ってきましたが、その効果もあり、ここ最近で最もフィーリングが良くなっています。そのおかげもあり予選 4 番手という順位に繋げることができました。みんなの協力、頑張りに感謝したいですね。とはいえまだまだ満足できる位置ではありませんし、クルマもまだ改善できるところが残っています。もっと詰められるところを詰め、明日の決勝レースは表彰台圏内を目指していきたいと思います」

TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「３月の公式テストから昨年の不振の理由を探し、TCD さんに協力をいただきながら、細かい部分までクルマのチェックを行ってもらい第１戦に臨みました。そこでいろいろな分かったこともあり、弱点だった場所を補うための準備を行ってきましたが、走り出しからフィーリングも良く、トップとの差も少なくなっていたと思います。とはいえ午前はまだ課題が残っており、それをエンジニアたちと修正してきたところ、予選では感触はさらに良くなっていました。自分がドライブしているときに少し想定外のことがあったのですが、ギリギリ Q1 を通過できたので良かったです。なのでタイム以上にフィーリングは良かったですね。立川選手が Q2 で期待どおり順位を上げてくれたと思います。昨年は見えなかった予選順位ですし、ひさびさに戻って来られたのは嬉しいですね。とはいえ上位に GR Supra 勢もいるので、残る差をしっかり詰めていきたいです。公式練習ではレースに向けた準備もできているので、決勝でしっかり活かせればいいですね」

田中耕太郎監督

「午前の公式練習からエンジニア陣とドライバーたちが一生懸命策を練り、いろいろなことを試しながら、うまく時間を使いつつ組み立てることができたと思います。予選に向けてもその組み立てが功を奏したのではないでしょうか。Q1 では石浦選手のアタック中に他車のスピンがありましたが、冷静に１周まわり、最終ラップにアタックを決めてくれたと思います。立川選手の Q2 では、Q1 での情報をもとにベテランらしさを出してくれました。うまく４番手を得られたのではないでしょうか。#14 GR Supra がポールポジションでしたが、タイヤの面でチャレンジしているようです。我々は少しタイヤ選択の面でコンサバティブなところはありましたが、それは仕方がないと思っています。２列目グリッドなので良い予選にはなったと思いますし、決勝に向けては、しっかり表彰台を目指し、しっかり力を見せながらそつなく開幕戦を終えられればと思っています」

TGR TEAM ZENT CERUMO

TGR TEAM ZENT CERUMO

公式予選結果

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	14	ENEOS X PRIME GR Supra	1'17.251	1'17.426
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	1'17.387	1'17.460
3	100	STANLEY NSX-GT	1'17.544	1'17.509
4	**38**	**ZENT CERUMO GR Supra**	**1'17.729**	**1'17.636**
5	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	1'17.812	1'17.486
6	36	au TOM'S GR Supra	1'17.834	1'17.177
7	12	CALSONIC IMPUL Z	1'17.859	1'17.521
8	19	WedsSport ADVAN GR Supra	1'18.126	1'17.201
9	23	MOTUL AUTECH Z		1'17.697
10	8	ARTA NSX-GT		1'17.717
11	64	Modulo NSX-GT		1'17.724
12	17	Astemo NSX-GT		1'17.822
13	37	KeePer TOM'S GR Supra		1'17.950
14	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z		1'17.993
15	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT		2'10.722